

J A めむろ（辻勇組合長、正組合員1840人）の第45回通常総代会が14日、同 J A 本部事務所で開かれた。2018年度の農業粗生産額は前年度比21億円減の293億円だったが、15年度に次ぐ過去3番目に高い水準となった。

耕種部門は187億円。小麦やジャガイモの収量は、天候不順が影響して平年を大きく下回った。豆や野菜類もやや下回ったものの、価格で盛り返した。

畜産部門は106億円。生乳は補給金を含む販売代金が32億2649万円となり、前年度を上回る結果となった。肉

用牛は高値で推移し、販売額が1.5%増の61億686万円を記録した。

経常利益は5億4469万円、当期末処分剰余金は4億9883万円となった。辻組合長は「長年の基盤改良と営農努力のたまもの。感謝したい」とあいさつした。

J A 決算 3600億円突破 8 J A が最高更新 管内18年度取扱高合計

2019年6月20日

管内24 J A の2018年度決算が出そろった。農畜産物の取扱高や粗生産高、支払高の合計は3648億2100万円となった。生乳生産の増加や堅調な家畜取引価格を背景に畜産部門が好調に推移、8 J A で過去最高を更新した。決算期や算出方法が異なる金額を単純計算したものだが、農協や十勝総合振興局が昨年末に発表した取扱高の概算値3320億円を上回り、十勝農業の地力を改めて示す数字となった。

◆畜産好調、振興局概算超え

取扱高には「商系」と言われる J A 以外の一般商社は含まれていない。取扱高や粗生産高、支払高は、J A ごとに決算期が違ったり、交付金や共済金を含めるか含めないかなど算出方法が異なったりする。このため単純比較はできないが、見込み額も含めて試算した昨年末の概算値に比べると実績ベースの数字になる。

各 J A は4月から6月にかけて総会や総代会を開き、18年度の決算を発表した。十勝毎日新聞社のまとめによると士幌町の461億3000万円をはじめ、8 J A でこれまでの最高額を更新した。畜産部門が主力の J A の伸びが顕著だった。好調だった17年度に続く2、3番目に高い J A も目立った。

18年産の耕種（畑作）部門は、6月中旬以降の天候不順

によって小麦の収量が前年を大きく下回った他、管内全域で見ると豆類、ジャガイモ、ピートも前年の収量には届かなかった。

酪農はホクレンの生乳受託数量が過去最高を記録。乳価の上昇や子牛価格が好調で取扱高を伸ばした。肉用牛も枝肉価格や素（もと）牛価格が堅調に推移した。

十勝農協連の山本勝博会長（J A 中札内村組合長）は「この数年間、ほとんどの農協が過去最高や2、3番目に多い取扱高を記録している。牛の改良が進み、畑作の反収が増えるなど10年前と比べて生産技術が上がったことが理由ではないか」と話している。

管内では商系も200億～300億円程度の取扱高があるとされ、十勝全体では4000億円近くの規模になるとの見方もある。

4 J A トップ交代 めむろ、幕別町、本別町、うらほろ

2019年6月22日

管内24 J A の総会、総代会が15日までに終わり、例年より多い4 J A で組合長が交代した。10年以上務めたベテランが引退した一方、管内では唯一、道内2番目に若い40代の組合長も就任。J A 本別町では管内初の女性理事も誕生した。

◆宇野氏道内2番目の若さ ベテラン組合長が退任

管内では15日に開かれた帯広かわにし、めむろ、木野で全ての J A の総会、総代会が終了した。役員改選した J A のうち、J A 幕別町、J A 本別町、J A うらほろ、

J A めむろでトップが代わった。過去10年でも、組合長の交代が多い年となった。

本別町は田中敏行氏（62）、うらほろは馬場幸弘氏（72）が4期12年で退任。めむろは辻勇組合長（71）が4期途中で辞任するなど、ベテラン組合長が一線を退いた。J A 幕別町も常勤理事を長く務めた渡邊善隆氏